

## ○第4期 北海道科学技術振興基本計画に係るKPIの検討

基本的取組	K P I			設定・見直し理由
	(第3期) 北海道科学技術振興計画	第4期北海道科学技術振興基本計画 〔調査手法〕	目標値 現在値(直近)   目標値	
1 北海道の特性を活かした研究開発の推進	○道内大学等における共同研究の件数  ○製造業の付加価値生産性	④【指標1】道内大学等における共同研究の件数〔科技課調査〕  〔「中長期の経済財政に関する試算(R4.7.29経済財政諮問会議)」の実質GDP成長率(成長実現ケース)を共同研究の伸び率で設定(R4:2.0%/R5:1.1%/R6:2.2%/R7:2.4%/R8:2.3%/R9:1.9%)〕	R3 1,667件 → R9 1,872件	○生産性の向上に科学技術との関連性が低いため参考値に変更
2 道における研究開発等の推進	○道総研における外部資金による研究課題数 ○道総研における知的財産権の実施許諾数	④【指標1】(再掲)		○道総研のみの指標であること、道総研中期計画で進捗管理されるため参考値とする
3 科学技術を支える人材の確保・育成	○道内大学卒業生等の道内就職率(理工系学部)	④【指標2】新規大卒者(大学等)の道内就職割合(専修学校除く)〔北海道労働局調査〕	R3 61.8% → R9 63.2% 〔道(経済部)目標(専修学校含む)H30:68.6%→R6:70%と同様の伸び率(1.4%)で設定〕	○科技・イノベ基本法改正(R3)で「人文科学のみに係る科学技術」が対象となり指標を見直し(理工系→全学科)  ○国の科技・イノベ基本計画のKPIを踏まえ設定〔国KPI〕R7までに3割以上(R元:22.2%)
		④【指標3】道内大学における40歳未満の教員の割合〔科技課調査〕	R3 (別途調査)% → R9 現状以上 ※参考:北大19.1%(R3) 〔北大の40歳未満職員割合が低下傾向にあることを踏まえ、現状以上を目標値〕	
4 産学官金等の多様な主体による協働の推進	○道内大学等における特許等の実施許諾数	④【指標1】(再掲) ④【指標4】道内大学等における特許等の実施許諾数〔科技課調査〕	R2 1,521件 → R9 2,780件 〔H28~R2平均増加数184件/年と同程度を目標〕	
5 スタートアップの推進		④【指標5】道内大学発のスタートアップ創出数〔文科省 産学官連携調査、エイチフォース調査〕	新規 → R5~R9 のべ135件以上 〔エイチフォース目標値(R5~9:135件)と同数値〕	○次期計画で新たな項目となったため、KPIを設定
6 研究成果の企業への移転及び事業化・転用化の推進		④【指標1】(再掲)		
7 連携プラットフォームによる活動の推進		④【指標6】道内大学等における国のプロジェクト実施件数〔文科省 産学官連携調査〕  〔地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージにおけるR4獲得数11を基準に今後5年で1.1倍(55×1.1≒60)獲得することを目標〕	R4 11件 → R4~R9 のべ60件	○連携プラットフォームの主要な活動の一つである国のプロジェクトの実施件数をKPIに設定
8 知的財産の創造、保護及び活用	○特許流通サポーターによる特許流通相談件数	④【指標4】(再掲) ④【指標7】特許流通サポーターによる特許流通相談件数〔科技課調査〕  〔第3期KPI(H28:725→R4:755件)の増加幅30件と同程度増加することを目標〕	R4目標値 755件 → R9 790件 (R3 627件※)	(※)コロナ禍の影響により減少
9 科学技術コミュニケーション活動の促進	○「サイエンスパーク」参加児童生徒数	④【指標8】「サイエンスパーク」参加児童数〔科技課調査〕  〔参加児童生徒数はR4実績を維持、オンラインアクセス数はPRに努め、R4実績の30,000件から毎年1割増(R9:48,315≒50,000アクセス)することを目標〕	(参加児童生徒数) R4 1,300人 → R9 1,300人 (オンラインアクセス数) R4 30,000 → R9 50,000 アクセス アクセス	○R2からオンライン開催を行っており、実参加者数のほか、オンラインのアクセス数を指標に設定